

授業科目名	担当教員名	授業実施日	※
学問の面白さを知る	篠原久典先生	4月28日(火)	
学生番号	学部・学科	学年	氏名
04090031-2	経済学部	1年	大島亜純

私は今までナノテクノロジーという言葉を知っていたことがあっただけで

ナノ=小さい、テクノロジー=技術という認識しかなかった。

今回授業において先生の講演をお聞きし、ナノテクノロジーの世界に衝撃と感動を覚えました。まず、原子で文字を書けることやフラーレンを伸ばしたカーボンナノチューブで宇宙エレベーターなんて夢のようなものが実現されるかもしれないということを知ったとき、素直に感動しました。

私が先生のお話の中で最も印象に残っている話が2つあります。

1つめは、challenger disasterの事故調査委員長であったR. ファイマンの話です。challenger disasterの映像も衝撃的だったのですが、

1950年代に50年後のナノテクノロジーの普及を予言していたこと(There's plenty of Room at the Bottom)を知ったとき、鳥肌が立ちました。50年も先の未来のことを見通せる知識や経験は並大抵のものではないと思います。上田良二先生のお話にも共通して言うことですが、今にしがみつく狭い物事の捉え方ではなく、過去、現在、そして未来を見据えた研究、態度が大切なのだと実感しました。

2つめは、Serendipityについてです。まっぐらにテーマを研究し、

努力した者がたどりつく思いがけない発見を指すということです。私は天才タイプではないので2のセレンディピティータイプの人間(ノーベル賞ほど大したものではないにしても)に少しでも近づきたいと思います。広い視野とまっぐらな努力、今回の講演で学んだことは、私の中で非常に価値のあるものになりました。